

嶺北地域アクションプランの 進捗状況確認資料

嶺北地域本部
令和7年10月28日（火）

嶺北地域アクションプランの進捗状況確認資料

R7.10.28

嶺北地域本部

1 地域アクションプランの令和7年度上半期の実施状況(総括)

(1) 総評

令和7年度は、全16項目のアクションプランごとに実行支援チームを編成し、町村や事業者と事業推進に向けた協議や進捗管理を行うとともに、各種支援制度等を活用しながらそれぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めている。

当地域では、これまで取り組んできた事業の成果や課題を踏まえ、農林業の振興に向けた生産・販路拡大及び担い手確保や、地域の特産品を活用した加工品づくり、交流人口の拡大や国内外からの観光誘客といった、中山間地域における産業振興の取り組みを各分野で進めている。

農業分野

農業分野では、ブランド米「土佐天空の郷」の生産拡大に取り組むとともに、直販所「本山さくら市」では、産地間交流の拡大やイベントの開催等、売上増に向けた取り組みを進めている。

また、大豊町の伝統作物である「碁石茶」については、大豊町碁石茶協同組合を中心に、販路拡大に取り組むとともに、「銀不老」についても、(株)大豊ゆとりファームが生産事業を開始するなど、伝統作物の産業化に向けた取り組みが進んでいる。

畜産分野では、地域ブランドである土佐あかうしや大川黒牛の品質向上・生産拡大といった取り組みと併せ、さらなる販路拡大に向け、地産外商公社や県名古屋事務所との連携による産地視察の実施等、外商活動を行っている。

また、土佐はちきん地鶏については、昨年度休止となっていた食鳥処理施設の本格的な稼働再開により、生産から加工・販売までの一貫した取り組みが進んでおり、大規模商談会やイベントへの出展による販路拡大や認知度向上に取り組んでいる。

林業分野

嶺北地域は、県内でも有数の森林資源を有する地域であり、搬出間伐や皆伐による原木生産を進めるとともに、森林資源を生かした移住・定住促進、担い手確保のため、林業分野における地域おこし協力隊の受入れを進めており、令和7年度はこれまでに3人が着任した。

今後も、豊富な森林資源の利用促進を進めるとともに、地域の豊かな山林とそこで培われた技術・人材を最大限に生かし、造林や間伐といった川上から、木工製品の製造といった川下までの林業従事者に必要な基礎知識等を地域おこし協力隊在任中に学べる環境づくりを推進していく。

また、小規模事業者（事業体）の経営安定化に向けて、林業以外の木材加工や特用

林産等、森林資源を活用した多様な働き方への支援を強化し、新たな担い手育成の取り組みを進めていく。

商工業分野

地元産酒米にこだわった日本酒の販路拡大について、国内外における継続的な販路開拓とあわせて、地元産の酒米を大量かつ安定的に生産できる体制づくりに向け、生産者への技術指導などの支援を進めている。

シソ・ユズを活用した商品の販路拡大では、商談会等への参加による、関東・関西を中心とした取引先の拡大に取り組んでいる。近年のユズの不作による影響はあるものの、シソ商品については売上げが順調に推移しており、今後は、シソ原液を安定して生産できる体制の整備も進めていく。

土佐町石原地区では、加工品の販路拡大及び売上増加に向け、既存商品の磨き上げに取り組むとともに、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用により、嶺北産の農産物を活用した新商品を開発したところである。

引き続き、観光資源や直販所等を活用し、地域全体で稼げる仕組みの構築に取り組んでいく。

観光分野

観光分野においては、「ゆとりすとパークおおとよ」に、県内初となる「オートバイ神社」が設置されたほか、観光振興推進総合支援事業費補助金の活用によるキャンプサイト、ドッグランや駐車場の整備等、さらなる誘客に向けた準備を進めている。

また、さめうら湖を核とした観光振興の取り組みでは、新たにキャンピングカーサイトを整備し、県内では数少ない「RVパーク」としてさらなる魅力向上を図るとともに、さめうら湖畔の拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウトドアスポーツのイベント開催や合宿誘致の取り組み等を通じて、交流人口の拡大を図っている。

今後は、(一社)土佐れいほく観光協議会が中心となり、国の事業を活用した新たな広報素材の作成や、インバウンド向けの宿泊メニューの造成と広報活動に取り組むほか、徳島県三好市観光協会との連携による観光ガイドの育成や、双方のエリアを周遊することで宿泊増加につなげるためのメニューづくりに取り組んでいく。

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
農業	1	本山町のブランド米を核とした地域産業の活性化(本山町) 【実施主体】 ・◎(一財)本山町農業公社 ・本山町特産品ブランド化推進協議会 ・本山さくら市生産組合 ・本山町 ブランド米「土佐天空の郷」の安定生産及び品質向上による米販売額の増加や、直販所「本山さくら市」の魅力化等による売上拡大に取り組み、若者が魅力を感じる雇用創出を目指す。	「土佐天空の郷」、「天空の棚田米」合計販売額	0.77億円	0.7億円	0.7億円	1 土佐天空の郷・天空の棚田米の安定生産・販路拡大 <生産量の拡大> ・地域おこし協力隊等の導入により生産班の体制を強化し、現状の生産面積を維持【4月～】 ・栽培技術の見直し【4月～10月】 ・天候などの状況に対応した栽培指導の強化【4月～10月】 <売上増に向けた取り組み> ・既存の卸業者への玄米販売の定着・拡大に加え、反収アップによる生産増分をより収益性の高い精米の直営販売に切り替え ・栽培管理技術の見直しによる品質向上を進め、高いブランド力を維持【通年】 ・各種商談会への出展による新規取引先の開拓【通年】	1 土佐天空の郷・天空の棚田米の安定生産・販路拡大 <生産量の拡大> ・生産者37名、生産面積32.4ha(R6:36名、31ha) ・本山町農業公社生産班に職員1名を増員(4月～) ・普及所による育苗・水管理・病害虫・雑草防除等の指導(4月～) <売上増に向けた取り組み> ・タカラ米穀産地説明会への参加(7/13) →他産地のブランド米担当者やタカラ米穀ブランド米担当者と今年の生育状況や販促活動等について情報共有、意見交換を実施 ・R7産米集荷に向けた買取り価格の見直し(10月)	0.14億円 (R7.4月～9月) ・R7到達目標達成率:40.0% ・対前年同期比:53.8% ※9月末時点の目標達成率は低いが、新米の収量確保及び価格上昇により、本年度は目標達成の見込み。	A	(成果) ・生産者・生産面積の維持による収量の確保及び販売価格の上昇により、目標額は達成できる見込み。 (課題) ・安定した収量を確保できる栽培技術の定着 ・価格優位性を維持していくためのブランド力の維持 (今後の方向性) ・普及所によるきめ細かな栽培指導の徹底 ・品質及び付加価値の向上による高いブランド力の維持
			「本山さくら市」売上高	1.14億円	1.3億円	1.5億円	2 本山さくら市の魅力化による売上増 <売上増に向けた機能強化> ・商品の産地間交流のさらなる拡大【通年】 ・店舗販売品目を踏まえて、不足する品目について地元農家へ苗を配布し、委託生産を開始 ・適正価格設定の検討【通年】 ・土日の利用者増に向けたイベント開催【通年】 ・店舗の運営体制強化、人材確保・育成【通年】	2 本山さくら市の魅力化による売上増 <売上増に向けた機能強化> ・系統出荷のはねもの全量買取りをスタート(米なす、ししとう等) ・公式X、LINEでのイベント、商品入荷情報等の発信 ・連続テレビ小説「あんぱん」展の実施(8/9～8/31) →展示期間中の毎週土日祝にイベントを開催(本山町農業公社や地域内外の屋台出店) →レジ通過者数対前年比109%(R6.8:9,406人→R7.8:10,276人) ・イベントの開催 新米祭(10/11～12) 本山さくら市21周年祭(12月予定) まぐろ解体ショーを開催(1月予定)	0.62億円 (R7.4月～9月) ・R7到達目標達成率:95.4% ・対前年同期比:103.3%		(成果) ・定期的なイベントを開催することで、店舗への集客ができた。 →8月のイベント実施時のレジ通過者数対前年比109%(R6.8:9,406人→R7.8:10,276人) (課題) ・生産者の高齢化による商品数の減少 (今後の方向性) ・定期的なイベント開催による店舗への集客 ・産地間交流先の拡大による商品数の充実

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
農業	2	大豊町の伝統作物の地域産業化の推進 (大豊町) 【実施主体】 ・◎(株)大豊ゆとりファーム ・◎大豊町銀不老生産組合 ・◎大豊町碁石茶協同組合 ・(株)城西館 ・日本航空(株)高知支店 ・大豊町 大豊町の伝統作物である「銀不老」、「碁石茶」について、これまでの大豊町銀不老生産組合、大豊町碁石茶協同組合に、大豊町の農業を支えている(株)大豊ゆとりファームを加えた生産体制を構築することで、生産及び消費拡大の取り組みを効果的に推進し、伝統作物の産業化を進め地域経済の活性化を図る。	銀不老 出荷量	0.25t	1.5t	3t	1 希少価値の高い豆「銀不老」の生産拡大 ・(株)大豊ゆとりファームの体制強化による生産事業の本格化(地域おこし協力隊の導入、ノウハウ取得、圃場の確保等)【～3月】 ・(株)大豊ゆとりファームを中心とした生産・集荷体制の構築【～3月】 <消費拡大に向けた取り組み> ・現在、新商品の開発中の事業者との関係性を構築し、幅広い商品開発を依頼【～3月】 ・関係事業者と連携したイベント(種植え・収穫など)の開催【種植え：6～7月】【収穫：10月】	1 希少価値の高い豆「銀不老」の生産拡大 ・(株)大豊ゆとりファームに地域おこし協力隊1名導入(5月～：碁石茶と兼務)(※さらに1名募集中) ・城西館、大豊町、地域本部と生産状況について現状確認(5/28) →農業改良普及所に栽培指導の依頼し、栽培指導を実施(6/20、9/5、10/10) <消費拡大に向けた取り組み> ・生産量を増やすための人手確保策として、「れいほく移住広域連携事業」によるPRや移住フェア、ツアーなどを実施(6/28、6/29) ・JAL銀不老豆種植えイベント：参加者24名(6/22) ・城西館銀不老豆種植えイベント：参加者40名(高知商業18名)(7/12) ・JAL、城西館のスタッフによる栽培管理の手伝いを継続的に実施	0.05t (R7.4月～9月)	D	(成果) ・地域おこし協力隊(1名)の導入により、生産体制が強化された。(※さらに1名募集中) ・種植えイベントの実施により種植え作業が進み、関係人口の増加も図ることができた。 (課題) ・高齢化による生産農家の減少 ・天候に応じた栽培技術の見直しが必要 ・生産量不足による、消費拡大に向けた取り組みの停滞 (今後の方向性) ・(株)大豊ゆとりファームにおいて地域おこし協力隊を追加募集し、生産体制を強化(移住相談フェア等での効果的な募集活動のPR) ・農業改良普及所による栽培技術指導の継続 ・現在の圃場の出荷率の向上及び新たな圃場の確保 ・JAL、城西館と協働での種植え・収穫イベント開催による関係人口の増加
			碁石茶関連商品の総販売額	1,684万円 (R4)	1,776万円	2,267万円	3,000万円	2 伝統製法の後発酵茶「碁石茶」の消費拡大 【碁石茶協同組合】 ・海外も含めた営業活動を強化するとともに、新たな販路開拓による新規組合員の確保【～3月】 ・移住相談フェア等での新規生産者募集活動の推進【通年】 ・営業担当、生産組合、町による営業戦略会議を四半期ごとに開催し、戦略的に取り組む【年4回】 【(株)大豊ゆとりファーム】 ・(株)大豊ゆとりファームにおいて地域おこし協力隊を導入し生産体制を強化【5月～】 ・新商品開発 ・国の重要無形文化財指定を見越した販売戦略	2 伝統製法の後発酵茶「碁石茶」の消費拡大 【碁石茶協同組合】 ・営業担当職員と地産外商会社の職員との営業会議(毎月1回) ・生産量を増やすための人手確保策として、「れいほく移住広域連携事業」によるPR(HP等)や移住フェア、ツアーなどの実施(6/28、6/29)【再掲】 ・理事会の開催(5月) ・アグリフードEXPO東京へ出展(8/20～8/21) 【(株)大豊ゆとりファーム】 ・(株)大豊ゆとりファームに地域おこし協力隊1名導入(5月～：銀不老豆と兼務)【再掲】 →0.5t(対前年対比110%) ・碁石茶の製造開始(6月～9月迄) ・国の重要無形文化財指定に向けた碁石茶保存会の設立(8/27) ・国の重要無形文化財指定に係る認可手続き中	794万円 (R7.4月～8月)	C

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R9目標	R7計画	【D(Do)】	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R7到達目標 に対する現状					現時点の進捗状況		
											達成 見込み (※)	現状分析	
農業	3	<p>土佐あかうしを活用した地域産業の活性化 (土佐町、本山町、大豊町)</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎(株)れいほく未来 ◎肉用牛生産組合 ◎(株)れいほく畜産 JA高知県(土長地区) 土佐町 本山町 大豊町 <p>ブランド化が進み販売額が着実に伸びている土佐あかうしについて、今後も生産基盤の強化や生産性向上に取り組むとともに、ブランド力向上による高付加価値化などの取り組みを強化し、嶺北産土佐あかうしの販売額の増につなげていく。また、地域イベントの実施等、交流人口拡大につながる機会もあわせて創出していくことで、さらなる地域活性化を目指す。</p>	土佐あかうしの販売額	4億円 (R4)	3.8億円	4.2億円	4.5億円	<p>1 生産基盤強化、生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜舎整備等の検討による増頭対策 家畜保健衛生所の巡回指導等による飼養技術の向上【通年(40ヶ所:月1回)】 (株)れいほく未来における継続した肉質改善【通年】 <p>2 ブランド力向上による高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関によるブランド力向上に向けた営業活動・販促活動の強化【通年】 <p>3 交流人口拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> (一社)土佐れいほく観光協議会が中心となつて、関係団体等が連携し、土佐あかうしをメインとした嶺北ならではの消費拡大イベントの実施【9月~】 	<p>1 生産基盤強化、生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 相川地区において、畜舎新設に向け情報収集中 家畜保健所が管内40農家に対し、巡回指導を実施(毎月1回) →飼育技術(繁殖等)の向上や環境整備に向けた助言・指導 専属アドバイザーによる肉質の改善に向けた支援(毎月1回) <p>2 ブランド力向上による高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> R6年度末に(株)れいほく畜産に整備した加工設備機器(HACCP対応)がR7年度より本格稼働 →品質向上による商品の魅力向上 高級飲食店を対象とした外商活動(あかうしま牧场) →名古屋事務所との連携による産地視察:1社(8/1) →有償サンプルの提供(1社) →その他2社視察受入れ(10/15) <p>3 交流人口拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐あかうし街道2025スタンプラリーの実施(9月~2月) 	<p>2.01億円 (R7.4月~9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> R7到達目標達成率:95.7% 対前年同期比:95.7% 	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)れいほく未来による肥育成績は昨年と比較して、好調である。 →A2(R6:23.7% → R7.6月:25.5%) →A3(R6:29.0% → R7.6月:25.5%) →A4(R6:42.0% → R7.6月:40.0%) →A5(R6:4.6% → R7.6月:7.3%) A5ランクについて、R6年実績が6/131頭であったのに対し、R7年は6月末時点で4/55頭と割合が増加している。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜舎新設に適した土地の確保 飼料価格等の高騰による農家の負担増 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜舎新設に向けた支援 配合飼料の高騰に対する支援事業の継続実施(土佐町) 県や地産外商公社との連携による積極的な外商活動 	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R9目標	R7計画	【D(Do)】 R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	現時点の進捗状況						
						R7到達目標 に対する現状				達成 見込み (※)	現状分析	
農業	4	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産の活性化 (大川村) 【実施主体】 ・◎(株)むらびと本舗 ・◎(一社)大川村ふるさとむら公社 ・大川村 大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。	黒牛の販売額	5,247.9万円	7,300万円	7,800万円	1【大川黒牛】生産体制の強化 ・増頭計画に沿った出荷頭数の増加【通年】 ・大川黒牛としてのブランド化の推進【通年】 ・家畜保健衛生所の巡回指導等による技術支援【毎月1回】	1【大川黒牛】生産体制の強化 ・R5年度に改修した繁殖牛舎において、繁殖母牛・子牛の増頭を実現（R6当初：76頭 → R7当初：81頭） →出荷頭数の増加に向けた生産体制を構築 ・大川黒牛のブランド化推進に向け、ふるさと納税の返礼品数を拡充（4月～） ・家畜保健衛生所による牛舎の巡回指導（毎月1回） →品質の良い牛を生産・出荷	1958.2万円 (R7.4月～7月) ・R7到達目標達成率：80.5% ・対前年同期比：100.7%	C	(成果) ・繁殖母牛の増頭により、出荷頭数の増加に向けた生産体制の構築が進み、出荷計画に沿った出荷ができている(4～8月出荷頭数16頭)。 ・ふるさと納税返礼品の拡充により、ブランド化の推進に繋がった(大川黒牛の納税件数R6:13件 → R7:25件)。 ・品質の良い牛が生産・出荷されており、A5ランクの出荷率が向上した(R6：74.4% → R7:81.3%)。	
			はちきん地鶏販売額	1億3,028万円	1億5,300万円	1.8億円	2【はちきん地鶏】経営改善・販路拡大 ・食鳥処理施設の安定運営及び事業支出の圧縮による収支の改善【通年】 ・販売額増に向けた営業強化及び販路拡大【通年】 ・家畜保健衛生所の巡回指導による鳥の安定生産(毎月1回) ・鶏舎の整備や設備導入【通年】	2【はちきん地鶏】経営改善・販路拡大 ・外国人材の受入れ及び食鳥処理衛生管理者の確保により、自社食鳥処理施設での食鳥処理を本格再開(4月～) →外部への処理委託費が削減され収支改善につながる見通し ・県庁職員へのはちきん地鶏の販売 →売上89.5万円(8～9月) ・首都圏商談会への参加(7月) ・都心部飲食事業者による産地視察の受入れを実施(7月) →視察後、店舗で期間限定のコラボメニューを販売(9月～11月) ・原宿スーパーよさこい出店 →売上61万円(8月) ・常温販売可能な加工品を新たに開発中 ・家畜保健衛生所による鶏舎の巡回指導(毎月1回) →鶏舎の換気改善や免疫対策指導で鶏舎環境が改善 ・朝谷鶏舎における中屋根設置作業をR6から継続して実施(随時作業中) →生育環境向上に繋がる見通し ・方田鶏舎の再稼働に向けた環境整備を実施(5月～)	4,758.1万円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：74.6% ・対前年同期比：109.7%		(成果) ・自社食鳥処理施設での食鳥処理が再開したことにより、外部への処理委託費が削減され収支改善につながる見通しである。 ・販促活動やイベント出店、商談会参加等、はちきん地鶏の認知度向上や販路拡大に取り組むことで売上高の増加に寄与している。 ・家畜保健衛生所の巡回指導により、鶏舎の換気改善や免疫対策指導で鶏舎環境が改善された。 ・鶏舎の整備が進んでいることにより、生育環境の向上や生産体制の強化に繋がる見通しである。	
			1億2,673万円(R4)							(課題) ・生産人材の不足 ・大川黒牛ブランドとしての市場流通	(今後の方向性) ・地域おこし協力隊の募集やハローワークでの求人活動の継続及び外国人材の活用も視野に入れた新規就業者の確保 ・大川村謝肉祭(11/3)に合わせて、ECサイトを活用した大川黒牛とはちきん地鶏のセット商品の特別販売の実施によるブランド牛としての市場流通の拡大	
										(課題) ・はちきん地鶏の認知度の向上 ・販路拡大に向けた営業体制の強化	(今後の方向性) ・大規模商談会やイベント等の参加により、はちきん地鶏の認知度向上及び販路拡大の取り組みを継続(特産畜産物販売拡大総合支援補助金を活用) ・都心部飲食店での期間限定のコラボメニューの取り扱いによる認知拡大と継続的な取引への展開 ・営業体制の強化に向けた人材育成の検討	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R9目標	R7計画	【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R7取り組み状況				現時点の進捗状況		
										R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
林業	5	<p>嶺北地域の林業・木材関連産業の担い手確保による地域活性化 (嶺北地域全域)</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 本山町 ◎ 大豊町 ◎ 土佐町 ◎ 大川村 ・ 小規模林業事業者(事業体) ・ 森林組合 ・ 木材加工業・木工製品等製造業者 <p>地域おこし協力隊等の地域定着率アップによる林業・木材関連産業における新たな担い手の確保を図るため、川上～川下までの一体的な人材育成体制を構築するとともに、小規模事業者の経営安定化のため、林業以外の収入確保(森林資源を活用した多様な働き方)への支援を強化する。</p>	地域おこし協力隊(林業)の着任数 3人 (R4)	2人	5人	10人	<p>1 地域おこし協力隊(林業)の受入れ <一体的な人材育成体制の構築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊在任中に川上～川下までの一連の林業関係スキルが修得できる学習環境づくり【通年】 ・林業(間伐、造林、下刈り等)の地域でのOJT体制の検討【通年】 ・木材加工等・木工製品等製造事業者における研修受入体制整備に向けた検討【通年】 <p>2 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知暮らしフェア等において、地域おこし協力隊等によるPRの実施【6月～】 ・協力隊インターンシップの拡充【7月～】 	<p>1 地域おこし協力隊(林業)の受入れ <一体的な人材育成体制の構築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊(林業)が3名着任 ・(一財)もりとみず基金による地域おこし協力隊ミーティング及び情報交換会の開催：3回(5/7、6/30、7/7) ・林業事務所における町村間での意見交換会及び取組状況聞き取り(各町村1回：(5/26、6/5)、町村等参加WG：1回(7/10)) ・林業事務所が作業道開設等に関する測量及び作図研修の実施：6回(5/7、5/23、6/6、6/13、7/3、7/17) ・林業事務所において特用林産物の生産について情報収集→ウラジロガシ2回(5/12、7/23)・オウレン1回(7/29) ・クロモジ出荷の協議に参加「林業事務所、地域おこし協力隊、買取業者」(6/30) ・(一財)もりとみず基金による森林・林業に関する研修会の実施：6回(4/9～4/10、4/22、5/9、5/19～5/20、8/5、8/20～8/22) ・林業事務所が土佐町地域おこし協力隊に対して、アウル(森林3次元計測システム)や間伐、作業道に関する研修を実施(8/28) ・LLPトサイチオンによる製材・チップ製造に関する指導：指導人数5名(通年) ・トサイチオンによる木工体験教室：10回 <p>2 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者(事業体)の経営安定化 ・小規模林業総合支援事業による研修会開催支援 ・中国・四国ブロック林業グループコンクールにおける、特用林産物生産の取組状況発表への支援を行い、最優秀賞を受賞(7/24) ・特用林産研修の実施：2回(8/5、9/30) ・みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)により林業機械レンタル料についての支援(4月～：大豊町、本山町) ・本山町が導入した林業機械を小規模林業者へ安価レンタルにより支援【通年】 ・町からの交付金により、(一財)もりとみず基金が導入した林業機械をR7年度より小規模林業者へ安価レンタルにより支援(4月～) 	<p>3人 (R7.4月～8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：60.0% ・対前年同期比：150.0% 	<p>D</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊(林業)が3名着任した。 ・任期満了となった地域おこし協力隊員の定住により、地域の林業労働力(60日/年)が増加した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な林業機械類の導入費用が高額 ・生活の基盤である間伐や皆伐等事業地の確保 ・林業分野での都市部からの移住促進のための情報発信力向上 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)を活用した林業機械レンタル制度の積極的な活用 ・町の支援による林業機械の安価レンタルの継続、新規機械の導入 ・森林経営管理制度による間伐事業地の確保への支援(町村) ・特用林産物の生産に関する情報収集や研修への参加 ・もりとみず基金による嶺北地域の新任林業労働者向け人材育成研修の継続支援 		

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
商 工 業	6	嶺北地域のシソ・ユズを活用した地域産業の活性化 (本山町) 【実施主体】 ・◎(有)さめうらフーズ ・集落活動センター汗見川 ・生産者 ・本山町 町内においてシソ・ユズの生産維持・拡大に取り組むとともに、関連商品の生産体制強化・販路拡大を行うことで、さらなる地域産業の活性化を目指す。	シソ・ユズ商品の販売額	1.0億円	0.9億円	1億円	1 シソ・ユズを活用した商品の生産 ・人材確保の検討【通年】 ・設備投資の検討(冷凍庫導入等)【通年】 2 県外での販路拡大 ・県外商談会への出展・営業活動強化【通年】 ・新商品開発に向けたアドバイザー制度等の支援策活用の検討【通年】	1 シソ・ユズを活用した商品の生産 ・町内事業者における人材不足の解消に向けた特定地域づくり事業協同組合の設立を本山町が検討 →事業者向け制度説明会開催(9/24) 2 県外での販路拡大 ・商社商談会等への参加(国分、日本アクセス等) ・新商品開発の検討	0.62億円 (R7.4月～9月) ・R7到達目標達成率：137.8% ・対前年同期比：106.9%	S	(成果) ・R6年産ユズの不作(例年の収穫量の4割程度)により原料の不足が生じたため、ユズ関連商品の売上げが減少しているものの、関西・関東圏のスーパーやAmazonとの安定的な取引、商社商談会への参加による取引先拡大により、シソ関連商品を中心に売り上げは順調に推移している。 (規取引先約100社(R7.9月末時点)) (課題) ・商品製造にかかる人材の確保 ・商品ラインナップの拡充 (今後の方向性) ・特定地域づくり事業協同組合等を活用した人材確保の検討 ・新商品開発の検討(産振アドバイザー制度等の活用を検討)
			シソ原液出荷量	10,854L	10,620L	12,240L	3 原料生産の強化 ・シソの栽培地域維持・拡大の検討(担い手確保含む)【通年】 ・新加工施設整備の検討(同規模加工施設視察等)【通年】 ・ユズの生産拡大【通年】	3 原料生産の強化 ・シソ播種(4月)、シソ育苗、定植(5月～6月)、集落活動センター汗見川におけるシソの集荷・加工(6月～8月) ・シソ生産者登録：16名 ・ユズ苗(200～300本)の栽培(さめうらフーズ)及び定植(秋以降)	12,312L ・R7到達目標達成率：115.9% ・対前年同期比：113.4%		S

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】					
分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
商 工 業	7	<p>れいほく野菜等の特産品を活用したビジネスの活性化 (土佐町)</p> <p>【実施主体】 ・◎sanchikara ・NPO法人土佐さめうら観光協会 ・土佐町</p> <p>嶺北地域の小規模農家等が生産する農産物を集約し、都市部の飲食店等への直接販売を行うビジネスを強化して、さらなる売上げ増を図り、雇用の創出につなげる。</p>	<p>県外飲食店等との直接取引による販売額</p> <p>3,500万円 (R4)</p>	4,400万円	6,750万円	1億円	<p>1 農産物の直接販売の仕組みづくり ・販売商品(農産物・加工品)のさらなる発掘【通年】 ・集出荷拠点の検討【通年】</p> <p>2 販路の拡大 ・各種商談会・イベント等への参加による営業活動・販路拡大【通年】 ・一般消費者向けの売上増に向けた取り組み強化【4月～】</p>	<p>1 農産物の直接販売の仕組みづくり ・地域内加工施設の運営および販促に向けた伴走支援を実施(通年) ・主力となっている加工品の衛生管理向上に向け、生産者における衛生管理の向上を推進(5月) →衛生管理の向上を通じて、消費者の信頼を高め、販売商品の魅力を強化(生産性向上推進アドバイザー制度(地産地消・外商課)を活用) ・新規生産者の増加に向け、農業への参入を促す仕組みづくりを検討中</p> <p>2 販路の拡大 ・一次産品および加工品の販路拡大に向けた県内外での商談会・イベント等への参加：3回(6/25.26、9/3.4.5、9/25) ・高知県名古屋事務所と連携し、産地視察の受入れを実施：3社(8/11、10/15) ・R7.1月に拡充した通販プラットフォームの活用により、一般消費者向けの販売チャンネルを強化(4月～)</p>	<p>2,850万円 (R7.4月～8月)</p> <p>・R7到達目標達成率：101.3% ・対前年同期比：146.2%</p>	A	<p>(成果) ・加工事業者への伴走支援や商談会への参加により、加工品の売上げが2割程度増加した。 →対前年同期比(120%) ・生産性向上推進アドバイザー制度を活用したことで、加工品生産者の衛生管理意識向上により、加工品の品質向上が期待される。 ・通販強化の取り組みにより一般消費者向けの売上げが増加した。 →対前年同期比(140%)</p> <p>(課題) ・商品確保に向けた生産農家の確保 ・出荷数や生産農家の減少により、集出荷場整備の検討</p> <p>(今後の方向性) ・水稻や園芸を中心とした研修制度の整備により受け入れ体制を構築し、新規就農者の増加を推進 ・地域内加工場との連携による新たな地場産品の開発と付加価値を高めた販売戦略の強化(産業振興アドバイザー制度の活用を検討) ・県内外の商談会への継続的な参加による販路拡大</p>

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
								R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
商 工 業	8	嶺北地域で140年続く酒蔵を核とした地域活性化 (土佐町) 【実施主体】 ・◎土佐酒造(株) 嶺北地域の酒米にこだわった、土佐酒造(株)の高品質な日本酒のさらなる生産体制の強化及び海外への販路拡大を図り、売上増につなげるとともに、経済効果を地域に波及させるため、地元産の酒米を大量かつ安定的に生産できる体制を確立する。 また、日本酒の販路拡大と、酒米の生産拡大の取り組みを通じて、地域における雇用創出を図る。	売上高	3億2,710万円	3.9億円	4.5億円	1 生産性の向上及び販路拡大 <販路拡大・売上増> ・新工場建設による生産能力の向上を踏まえ、欧州やアジア地域に加えて、北米や豪州にも販路を拡大【通年】 ・国内外でのイベントや各種商談会への参加等による営業活動の継続【通年】 <生産性の向上> ・生産体制の確保及び新たな設備導入に向けた取り組みの推進【通年】	1 生産性の向上及び販路拡大 <販路拡大・売上増> ・アメリカ合衆国やオーストラリアに加え、R6より取引が開始したカナダ向けの輸出を強化 ・国内外でのイベントや各種商談会への参加を日々継続するとともに、首都圏への営業活動を強化(通年) →新規取引先数19件(4月～8月) <生産性の向上> ・R6に導入した大型の洗濯機や乾燥機の活用により、製造工程における布類の洗濯作業の効率化を実現し、各作業工程の機械化・効率化が一巡	1億5,052万円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：92.6% ・対前年同期比：118.7%	B	(成果) ・北米や豪州への輸出強化により、海外売上高が増加した。 (対前期比109%見込み) ※R6.9期：3,813万→R7.9期：4,170万(見込み) ・継続した営業活動の取り組みにより、首都圏を中心に取引先が増加し、売上高の増加に寄与している(新規取引先数19件(4月～8月))。 ・R6の機械設備の導入により、各作業工程の機械化・効率化が一巡し、生産性が向上した。 ・勉強会や技術指導の継続的な実施、交付金の活用により町内での酒米生産量を維持できている。 生産者(R6：17名→R7：17名) 栽培面積(R6：1,360a→R7：1,255a) ・生産面積は減少しているものの、必要量は確保できており、地元産原料米の安定調達につながっている。 ・ハローワークによる求人の継続により、従業員5名の雇用につながった。
			地元産原料米調達量	132t	200t	230t	2 地元産原料米の調達拡大 ・土佐町松ヶ丘地域を中心とした酒米生産の呼びかけや勉強会、技術指導の継続【通年】	2 地元産原料米の調達拡大 ・役場営農指導員が中心となり、勉強会や技術指導を継続して実施：3回(6/28、7/12、9/6) ・町内酒米生産者を支援：生産者17名(R7年度) (土佐町酒米生産拡充交付金を活用)	— (1月以降集計予定) ・R7到達目標達成率：—% ・対前年同期比：—%		—
			従業者数	27人	27人	33人	・ハローワークによる求人の継続【通年】 ・人材育成の強化に向けた検討【10月～】	・ハローワークによる求人活動を継続し、必要な人材を確保 →5名雇用(4月～8月)	26名(正規13名) (R7.8末時点) ・R7到達目標達成率：96.3% ・対前年同期比：152.9%	B	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R9目標	R7計画	【D(Do)】 R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	現時点の進捗状況						
						R7到達目標 に対する現状				達成 見込み (※)	現状分析	
商 工 業	9	ジビエを活用したローカルビジネスの推進 (大豊町) 【実施主体】 ・◎燈ので家 ・大豊町商工会 ・大豊町 ジビエ肉(主にシカ肉)を活用したペットフード商品を製造・販売するとともに、新事業(宿泊事業)に着手し、宿泊事業とセットで収益性の向上を図り、交流人口の拡大と地域雇用の創出へつなげる。	ペットフード 販売額	241万円	333万円	500万円	1 生産拡大 <原材料(シカ肉等)の確保> ・既存の買い取りルートに加え、高知県全域の買い取りが可能であることを前面に出した買い取り営業・PRの実施【通年】 ・県内外で開催されるイベント等でアンケート調査を実施し、ニーズを把握【～3月】 <製造の効率化> ・新商品開発に向けた製造効率化にかかる設備投資の検討【～3月】 2 販路拡大 <販促活動の実施> ・新商品づくりにつながる需要把握を含めた販促活動の実施【～3月】 ・HP、SNSによる情報発信【～3月】	1 生産拡大 <原材料(シカ肉等)の確保> ・鳥獣被害防止対策に向けてICTわな(センサーカメラ等)を整備(鳥獣被害防止総合対策交付金を活用)(10月～) ・地元の猟師とジビエ加工販売事業者による鳥獣被害対策に関する協議を開始(8月～) ・シカ肉買取にかかるチラシを作成し、猟友会等へ配布 <製造の効率化> ・新商品開発に向け、レトルト機や充填機を新たに導入するための加工場の整備に向けて、事業計画及び収支計画を作成中 ・規格外野菜や卵、魚の廃棄部位などを利用した新商品の検討を開始(4月～) ・「事業戦略策定支援セミナー」へ参加し、開発中のレトルト商品にかかる販売戦略を策定：4回(5月～7月)	93.1万円 (R7.4月～9月)	D	(成果) ・多数のイベントへの参加により、商品PRが図られた。 ・ペット栄養管理士の資格取得による商品の品質の安全性の保証といった付加価値を高めることができた。 ・新商品開発に向けた事業戦略を策定することができた。 (課題) ・販売額の目標に対し原材料の買取量が不足 ・新商品開発を見据えた機器の導入の検討 (今後の方向性) ・地元及び近隣エリアの猟友会等への買取営業を強化し、鹿肉の必要量を確保 ・新商品開発及び原材料の確保(産振アドバイザー制度の活用を検討) ・必要な機器類の導入	
			宿泊事業 売上高	-	0万円 ※宿泊事業未着手	500万円	3 新事業(宿泊事業)の検討 <ターゲットを見据えた宿泊事業の展開> ・宿泊事業経営戦略を基にしたソフト・ハード両面の取り組みを実施(視察による情報収集、施設改修検討等)【8～9月】 ・資金調達に向けた各種支援策の情報収集等の取り組みの実施【～3月】	3 新事業(宿泊事業)の検討 <ターゲットを見据えた宿泊事業の展開> ・宿泊事業に関する事業計画を策定中(産業振興センター、よろず支援拠点を活用)(4月～)	- (R8整備に向けて協議中)		(成果) ・産業振興センター、よろず支援拠点を活用し、宿泊事業に関する事業計画策定の見通しがついた。 (課題) ・安定した収益が確保できる事業計画の策定が困難であることから、活用可能な補助金の利用検討 (今後の方向性) ・宿泊事業にかかる事業計画作成に向け、活用できる助成制度を調整 ・引き続き産業振興センター、よろず支援拠点のサポートによる事業計画の策定 ・新事業の経営戦略、投資効果の策定(産振アドバイザー制度の活用を検討)	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
商 工 業	10	どぶろくによる「杉の大杉」エリアの活性化 (大豊町) 【実施主体】 ・◎農家食堂ファミリー大杉 ・大豊町商工会 ・大豊町 農家食堂ファミリー大杉において、どぶろくの既存商品の磨き上げと新商品の開発を行い、販路拡大・売上げの増加を目指すとともに、規模拡大に応じた生産・加工設備の導入も視野に入れ、地場産業としての振興を図る。また、隣接する「杉の大杉」や「道の駅大杉」を含めた大杉エリア全体において、どぶろく振興による稼げる仕組みを構築する。	どぶろく商品 販売額 150万円 (R4)	148万円	325万円	500万円	1 販路拡大 <新商品の開発> ・厳密な温度管理がいない、火入れどぶろくの商品化【9月～3月】 <販促活動の実施> ・ネット販売体制強化【～3月】 ・嶺北エリアの小売店や宿泊施設への販売促進活動の実施【～3月】 2 生産規模の拡大 <生産・加工設備の導入> ・生産拡大と原料米の確保に向けた生産組合化の検討【8月～】 ・生産拡大を見据えた生産・加工設備の導入検討【12月】	1 販路拡大 <新商品の開発> ・火入れどぶろくの試作及び商品ラベル案の検討を開始(9月～) <販促活動の実施> ・Instagram等のSNSを通じた情報発信(4月～) ・よろず支援拠点のサポートを受け、商品の効果的な情報発信を検討中(4月～) 2 生産規模の拡大 <生産・加工設備の導入> ・生産組合の立ち上げについて協議・検討を開始 →地元米農家1名及び大豊町外の米農家1名が組合加入の意向	98.8万円 (R7.4月～9月) ・R7到達目標達成率：60.8% ・対前年同期比：126.2%	D	(成果) ・新商品(火入れどぶろく)の検討(試作等)が進み、今後原料米確保の見通しが立てば、試飲会や販促活動が企画できる状況となった。 ・大杉エリア内の観光施設及び事業者の店舗への観光パンフレット設置により、大杉エリア全体での集客アップが見込めるようになった。 (課題) ・原料米の確保 ・ライト層からコアなファンまで幅広く楽しめるラインナップの充実 ・商品PRや、小売店等への販売活動の強化 ・大杉エリア内の集客アップに向けたPRの強化 (今後の方向性) ・地元農業者との生産組合立ち上げに向けた協議・調整を推進し、合意形成後、農業委員会や税務署への認可等申請 ・新商品化、販売拡大に必要な製造機器類の整備計画策定(食品加工高度化支援事業費補助金(地産地消・外商課)の活用を検討) ・大豊町観光開発協会と連携したPRの強化
大杉周辺エリア 入込数 (道の駅、杉の大杉) 97,364人 (R4)	93,411人	103,682人	110,000人	3 大杉エリア全体での集客アップの検討 ・地域本部と大豊町、関係機関が連携し、大杉エリア内の観光拠点施設をつなぐインセンティブ等の仕組みづくり【通年】 ・観光施設等とどぶろく振興など、エリア全体における関係機関が連携した集客アップに向けた取り組みの実施【通年】	3 大杉エリア全体での集客アップの検討 ・大杉エリア内の観光施設及び事業者の店舗への観光パンフレット設置によるPRの促進 ・農家食堂ファミリー大杉での、杉の大杉を活用したグッズの販売継続 ・廃校を利用した観光拠点の整備に向け、大豊町と高知蔦屋書店、(株)モデルビレッジの3者が日おおとよ小学校の利活用に向けての連携協定締結(6/6)	33,162人 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：76.8% ・対前年同期比：78.5%	C				

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R7計画	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標			現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	11	<p>嶺北地域における広域観光の振興 (嶺北地域全域)</p> <p>【実施主体】 ・◎(一社)土佐れいほく観光協議会 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村</p> <p>(一社)土佐れいほく観光協議会を中心に、嶺北地域の自然、歴史、文化、暮らしなどの多様な地域資源を生かした、訴求力のある旅行商品の造成を進めるとともに、ターゲットに応じた的確な情報発信等マーケティング活動を強化し、嶺北地域の観光地としての知名度を高め交流人口の拡大を図ること、観光産業の「稼ぐ力」を培い、地域経済の活性化を目指す。</p>	<p>主要 観光施設 の入込数</p> <p>385,343人 (R5見込)</p>	<p>371,797人</p>	<p>407,252人</p>	<p>429,420人</p>	<p>1 宿泊旅行の誘客推進 ・SNSを活用した国内及びインバウンド向けの情報発信(12月～) ・OTAを活用したインバウンドの誘客(12月～)</p> <p>2 日帰り旅行の誘客推進 ・観光拠点施設における魅力度の向上 「モンベル」における体験メニューの追加【9月～】 「早明浦ダム」におけるインフラツーリズムの強化【4月～】 ・「れいほく。」等既存イベントでの誘客促進を含め、シーズン展開を見据えたイベントの効果的な展開【通年】 ・近隣地域(徳島県三好エリア、仁淀川エリア、西条市など)との情報発信、ガイド養成等による具体的な連携【8月～】</p> <p>3 国内外の教育旅行の誘致推進及び受入促進 ・教育旅行における受入家庭の高齢化に伴う送迎手段の確保、単価等の見直しによる収益の確保【9月～】</p>	<p>1 宿泊旅行の誘客推進 ・国内及びインバウンド(香港・台湾)を対象とした広報素材の作成(地域魅力向上事業(観光庁)を活用) →嶺北エリアを紹介するPVを作成(11月予定) ・観光庁の事業を活用した分散型ホテル(れいほくホテル構想)の実現に向けた実地調査及び事業者への参加意向調査(10月) ・「れいほく。」の実施に伴い四国内にリーフレットを配布(9月～11月)</p> <p>2 日帰り旅行の誘客推進 ・モンベルBBQ+吉延の棚田散策メニューを造成し、れいほく内で実施(9/28～) ・香川県をターゲットとする早明浦ダムへの誘客に向けた営業活動 →香川県の旅行会社17社が現地視察：1回(6/18) →同ツアー活用による来訪：2件(9月)(他に予約2件) ・体験イベント「れいほく。」のメニュー作成(9月～) ・朝ドラ効果を見据えたツアーの造成と実施(8月～) →同ツアー活用による来訪：1件(9月)(他に予約4件) ・三好市観光協会との連携による観光人材育成に向けた取組の実施 →観光学習塾「土佐れいほく物語」：3回(8/27(6名)、9/28(3名)、10/25)</p> <p>3 国内外の教育旅行の誘致推進及び受入促進 ・受入強化及び送迎手段の確保に向けた「その郷(三好市)」との協議：2回(6月、9月)</p>	<p>157,187人 (R7.4月～8月)</p> <p>・R7到達目標達成率：92.6% ・対前年同期比：94.4%</p>	<p>B</p> <p>(成果) ・国内及びインバウンドの宿泊を伴う誘客に向け、SNSで流れるショートムービー等、新たな広報素材作成のための準備が整った(地域魅力向上事業(観光庁)の活用)(撮影等：10月～) ・三好市(徳島県)との連携による、観光ガイドの養成講座(1セット3回)がスタートした(1回目(参加者6名)(8月末～))。 ・三好市観光協会が実施する「四国縦断コース」に、嶺北エリアを加えるなど、周遊メニュー開発に向けた協力体制が構築できた。 ・早明浦ダムの50周年及び大規模工事を機に、関係の深い香川県にターゲットを絞った営業により誘客につながった。</p> <p>(課題) ・閑散期における誘客の促進 ・観光人材の不足</p> <p>(今後の方向性) ・地域魅力向上事業(観光庁)の活用により、制作する広報ツールの活用による閑散期における国内及びインバウンドの誘客 ・三好市との積極的な連携による、宿泊客の増加に向けた周遊メニューづくり ・分散型ホテル(れいほくホテル構想)の実現に向けた関係者間の協議 ・三好市観光協会との連携による観光人材育成に向けた取組みの拡充</p>	
			<p>主要 宿泊施設の 宿泊者数</p> <p>27,582人 (R5見込)</p>	<p>22,920人</p>	<p>30,000人</p>	<p>35,300人</p>	<p>13,122人 (R7.4月～8月)</p> <p>・R7到達目標達成率：105.0% ・対前年同期比：101.7%</p>	<p>A</p>			

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	【P(Plan)】					【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
		項目名・実施主体	指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
			主要 観光・宿泊 施設消費額 512,436 千円 (R5見込)	480,076 千円	587,196 千円	715,995 千円	4 周遊促進の仕組みづくり ・スタンプラリー等による飲食店舗の周遊促進支援【9月～】 ・宿泊者に対するエリアの情報提供 ・近隣地域(徳島県三好エリア、仁淀川エリア、西条市など)との情報発信、ガイド養成等による具体的な連携【8月～】 5 DMOとしてのマーケティング機能等の発揮 ・エリア満足度調査の継続的な実施【通年】 ・資源の再整理、魅力化推進【4月～】 ・デジタルデータの活用による打ち手構築【6月～】	4 周遊促進の仕組みづくり ・「あかうし街道」の実施(9月～2月) →四国内にリーフレットを配布+RKC取材、プレスリリース配布 ・「あす遊ぼ！」等冊子の配布によるコンテンツ紹介(通年) ・三好市観光協会との連携による観光人材育成に向けた取組の実施【再掲】 →観光学習塾「土佐れいほく物語」：3回(8/27(6名)、9/28(3名)、10/25)【再掲】 ・宿泊を伴う周遊メニューの開発 →三好市観光協会が実施する「四国縦断コース」に、嶺北エリアを盛り込むことで同協会と合意(4月) ・エリア内に来訪する訪日外国人の周遊促進に向けた英語版ガイドブックの作成(年度内) →域内宿泊施設へのヒアリングにより、訪日外国人の滞在傾向を把握(4～5月) 5 DMOとしてのマーケティング機能等の発揮 ・エリア満足度調査の回収率向上に向けた取組の検討(毎月) →電子マネーポイントの付与等を検討 ・ガイドブックの再整理による魅力度向上及び配布 →配布開始(4月～) ・委託先が実施するアプリの操作方法等についての講義を受講(デジタルデータ活用事業(地域観光課)の活用)：4回(6/25、7/11、7/29、8/22)	250,927千円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：102.6% ・対前年同期比：107.0%	A	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】				
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況			
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析	
観光	12	アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業の振興 (本山町) 【実施主体】 ・◎本山町 ・◎民間事業者 アウトドア拠点施設(アウトドアヴィレッジもとやま)を核として、地域ならではの豊かな自然や食、歴史、文化等を活用した魅力ある体験プログラム造成し全国に発信することで、地域への誘客を促進し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。	アウトドアヴィレッジもとやまの利用者数	39,638人	54,000人	58,000人	1 アウトドア拠点施設(アウトドアヴィレッジもとやま)の運営・誘客 <利用者数及び売上の増> ・ハイシーズンの客単価アップによる売上増 【通年】 →宿泊客向けオプションツアーの造成 →BBQ等の単価アップ等 ・閑散期(4月～6月、12月～2月)の利用者増による売上増【通年】 →クルーズ船利用者(外国人)をターゲットにした、棚田や野菜収穫など地域の魅力を活かした商品づくり →学生合宿、企業研修等のプラン検討 →土佐れいほく観光協議会と連携した情報発信・営業活動	1 アウトドア拠点施設(アウトドアヴィレッジもとやま)の運営・誘客 <利用者数及び売上の増> ・インバウンド対策協議：1回(9/16) →台湾・香港をターゲットにしたプラン造成について検討 ・体験イベント 春の防災植物教室クッキング：19名(4/29) 春の野鳥観察会：12名(5/10) 夜のネイチャーゲームと星空観察会：12名(7/20) はじめてのファミリーキャンプ(9/27～9/28) プッシュクラフトWS(10/4～10/5) ネイチャーゲーム(10/19) (11月以降も野鳥観察会や星空観察会等の体験イベントを開催予定) ・ガイド養成講座 登山ガイド講習in平家平：6名(5/11) 登山ガイド講習in国見山(10/18) 登山ガイド講習in梶ヶ森(11/8～11/9予定) 登山ガイド講習inモンベルアウトドアヴィレッジ本山(12/20予定)	26,012人 (R7.4月～9月)	B (成果) ・定期的な体験イベントの開催により施設の利用増や地域の周遊促進につながっている。 ・定期的な登山ガイド養成講座の開催により、地元ガイド等のスキルアップにつながっている。 (課題) ・インバウンドや閑散期(4～6月、12～2月)の利用者増に向けた対策 (今後の方向性) ・閑散期(4～6月、12～2月)の利用者増による売上増(産振アドバイザー制度の活用を検討) ・土佐れいほく観光協議会と連携した情報発信・営業活動の実施		
			アウトドアヴィレッジもとやまの売上高増			25,000千円					-	
			アウトドアヴィレッジもとやまの雇用創出数			2人						-

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】						【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】				
分野	No.	項目名・実施主体	指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	13	<p>ゆとりすとパークおおとよ・山荘榎ヶ森を核とした観光産業の振興(大豊町)</p> <p>【実施主体】 ・◎大豊町 ・◎指定管理者</p> <p>大豊町の2大観光施設である「ゆとりすとパークおおとよ」、「山荘榎ヶ森」それぞれの施設がポテンシャルを生かした観光コンテンツを造成するなど、両施設の再活性化を図り、交流人口の拡大を目指す。</p>	ゆとりすとパークおおとよ入込数(入場者+宿泊者)	12,866人	25,160人	27,000人	<p>1 集客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> オートバイ神社を設置しツーリング客を呼び込むとともに、レストランのカフェ機能の強化や、記念グッズ販売等によるお金を使ってもらえる仕組みづくり【オートバイ神社設置：9月】 イベントの企画・運営を担うスタッフの配置及び広大な芝生を活用したイベントの実施【～3月】 <p>2 施設の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマパークの開発実績があるなど専門性の高い人材を確保し、広大な敷地に花を植える等、多世代の誘客につなげるための基本構想の策定【～3月】 <p>3 吉野川流域の周遊観光の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 当施設や国宝など、見所ある観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり【～3月】 上記の売上を集約して雇用を創出する法人づくりを進め、若者の雇用の受皿を整備【～3月】 廃校を利用した観光拠点の整備を検討【～3月】 	<p>1 集客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> レストランの営業日を固定化し、営業日をSNSで発信 レストラン新メニューの開発：9種類(雲海カレーうどん等) 第1回ビアガーデン開催：参加者67名(うち宿泊者38名)(7/19) オートバイ神社の地鎮祭実施(8/7) 星空鑑賞会：参加者43名(宿泊者限定)(8/14～8/15) 第2回ビアガーデン開催：参加者24名(うち宿泊者6名)(8/30) 各種イベントについて、Instagramでの情報発信(7月～) オートバイ神社オープニングイベント：参加者約100名(9/28) ※県内第一号登録 <p>2 施設の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者が(株)Founding Baseに変更(4月～) ブランドコンセプト「雲の上の感動をいつでも」に基づく宿泊プランの作成 施設の魅力化・利便性の向上のための施設整備を検討 →観光振興推進総合支援事業費補助金(地域観光課)の申請手続き中 <p>3 吉野川流域の周遊観光の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃校を利用した観光拠点の整備に向け、大豊町と高知篇屋書店、(株)モデルビレッジの3者が旧おおとよ小学校の利活用に向けての連携協定締結(6月6日) 	<p>7,714人 (R7.4月～9月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：61.3% ・対前年同期比：87.1% 	<p>D</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストランの営業日を固定(定休日は火曜日)し、毎月の営業日をInstagramで情報発信を行ったことにより、サービスの向上を図ることができた。 ・新たなコンセプト(雲海)によるレストランメニュー及び宿泊プランを開発した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広大な施設を活用したイベントを定期的実施できる企画力のある人材育成 ・冬季期間の営業に向けた対策 ・吉野川流域の観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画力のある人材育成 ・観光振興推進総合支援事業費補助金(地域観光課)を活用し、キャンプサイト、ベンチ、ドッグラン、駐車場を新設予定。30代から40代を中心としたファミリー層をターゲットに利用者の確保の推進 ・広大な施設を活用したイベントの企画や、情報発信方法について、専門的知見のあるアドバイザーの導入を検討 ・冬季期間の営業に向けた路面、水道の凍結対策を検討 ・オートバイ神社設立に合わせたレストランのメニューやグッズの販売等、お金を使ってもらい仕組みづくり ・11月の出張篇屋書店イベント開催による周遊観光の促進 ・大豊町観光開発協会と連携したPRの促進 ・ゆとりすとパークと豊楽寺、定福寺など、吉野川流域の見所のある観光資源を活用した周遊観光の仕組み作りを検討 	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	【P(Plan)】					【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
		項目名・実施主体	指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
		山荘梶ヶ森 宿泊者数 1,133人 (R4)		1,886人	1,216人	1,300人	1 集客促進 ・夏、冬のそれぞれにおいて立地のメリットを生かし、天体観測などのターゲットを見据えた集客イベントの実施【8月】 2 施設の魅力向上 ・冬季営業を可能とする周辺インフラ、施設整備の実施の検討(水道施設の凍結防止、施設までの利用客の移動手段確保など)【～3月】 3 吉野川流域の周遊観光の促進【再掲】 ・当施設や国宝など、見所ある観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり【通年】 ・上記の売上を集約して雇用を創出する法人づくりを進め、若者の雇用の受皿を整備【通年】 ・廃校を利用した観光拠点の整備を検討【通年】	1 集客促進 ・ミシュラン獲得したお店のフレンチシェフのランチ&ディナーの提供 →ランチも含め、期間中完売(※ディナーは宿泊者限定) (4/15～8/31) ・山頂燻焼き体験の開催(4/26) ・梶ヶ森フォトコンテストの実施(7/1～9/30) ・森林浴ツアーリズムの開催(7/26～7/27) ・各種イベントについて、Instagramでの情報発信(4月～)【再掲】 2 施設の魅力向上 ・冬季営業可能に向けた施設周辺の道路整備の実施を検討 3 吉野川流域の周遊観光の促進【再掲】 ・廃校を利用した観光拠点の整備に向け、大豊町と高知高屋書店、(株)モデルビレッジの3者が旧おおよ小学校の利活用に向けての連携協定締結(6月6日)【再掲】	1,572人 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：310.3% ・対前年同期比：149.1%	S	(成果) ・SNSでイベントのPRを積極的に行い、当施設の魅力発信につながった。 ・各種イベントを約月に1回の頻度で実施したことにより、集客アップにつながった。 (課題) ・宿泊以外の商品不足 ・吉野川流域の観光資源を活用した周辺観光の仕組みづくり【再掲】 (今後の方向性) ・夏、冬のそれぞれにおいて立地のメリットを活かし、天体観測等のターゲットを見据えた集客イベントの実施 ・インバウンドの拡充に向けた海外営業 ・11月の出張蔦屋書店イベント開催による周辺観光の促進【再掲】
	売上高増 (2施設) -				25,000千円				-		
	雇用創出数 (2施設) -					2人					-

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】			
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	14	<p>山岳観光を核とした観光産業の振興 (大川村)</p> <p>【実施主体】 ・◎大川村 ・◎(一社)大川村ふるさとむら公社</p> <p>自然王国白滝の里を拠点として、四国山地、吉野川、さめうら湖といった自然の資源を生かし、自然や人とのふれあい・交流を深める新たな観光コンテンツをつくり、交流人口の拡大を目指す。</p>	白滝の里 入込数 5,292人 (R4)	4,610人	6,000人	6,700人	<p>1 地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の自然資源等を活用した体験プログラムの開発・磨き上げ・受入体制の整備【通年】 ・いしづちエリア(西条市、久万高原町、いの町、大川村)における観光コンテンツ等の情報発信【通年】 ・土佐れいほく観光協議会のHP、SNS 等と連携したPR【通年】 ・景勝地や白滝の里周辺の環境整備【通年】 <p>【(一社)大川村ふるさとむら公社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大川村さめうら遊覧船事業と食事・宿泊とのセットプランの造成及びガイドの育成や案内スポットの磨き上げによる誘客促進【通年】 ・白滝の里周辺の環境整備に向けた検討【11月～】 	<p>1 地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大川村さめうら遊覧船事業において、利用者向け音声ガイドや見どころガイド動画作成等の磨き上げを実施し、運行を再開。さらに、遊覧船ガイドを育成し受入体制を強化：運行回数28回、利用者数151名(4月～8月) ・大川村3スポットで誘客促進に取り組むため、いしづち山麓周遊ラリーを実施(8月～1月)(白滝の里、結いの里、筒井旅館) ・土佐れいほく観光協議会主催の体験博覧会「れいほく。」と連携した白滝遺構めぐりツアーを造成(10/12) ・「はちきん食べようカーニバル」の実施：3回、参加者113名(4月～8月) ・土佐れいほく観光協議会のHP、SNS等でPRを継続して実施 <p>【(一社)大川村ふるさとむら公社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大川村さめうら遊覧船事業において、利用者向け音声ガイドや見どころガイド動画作成等の磨き上げを実施し、5月より運行を再開：利用者数151名(4月～8月) ・さめうら遊覧船と食事・宿泊等のセットにした体験ツアー実施に向け、関係者間で協議を実施するとともに、ガイドの人材育成を実施 	2,896人 (R7.4月～8月)	<ul style="list-style-type: none"> ・R7到達目標達成率：115.8% ・対前年同期比：101.5% 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大川村さめうら遊覧船事業の磨き上げにに取り組んだ結果、利用者数が増加するとともに、遊覧船ガイドが1名育成され受入体制が強化された。 ・いしづちエリアにおける観光コンテンツやイベントとの連携、土佐れいほく観光協議会と連携したPR活動により、白滝の里の入込数増加につながった(はちきん食べようカーニバル参加者数：対前年度比136%)。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さめうら遊覧船利用者を白滝の里への誘客する仕組みが不十分 ・景勝地や白滝の里周辺の環境整備に向けた具体的な協議体制が未整備 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の受入体制で実施可能な範囲での、さめうら遊覧船と白滝の里での食事・宿泊を組み合わせたセットプランを造成による誘客促進 ・景勝地や白滝の里周辺の環境整備について、関係者間で協議を実施し、整備に向けた方向性を検討

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				【D(Do)】		【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	R9目標	R7計画	R7取り組み状況	現時点の進捗状況		
									R7到達目標 に対する現状	達成 見込み (※)	現状分析
観光	15	さめうら湖を核とした観光産業の振興 (土佐町) 【実施主体】 ・◎土佐町 ・◎民間事業者等 さめうら荘のさらなる魅力化とともに、湖面を活用した観光客向けのアウトドアアクティビティ体験を提供することで、地域外からのさらなる観光客の誘客を図る。また、さめうら湖畔に整備した拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウトドアスポーツの競技力向上や合宿誘致の取り組み等を通じて、嶺北地域全体の交流人口の拡大につなげる。	さめうら荘利用者数	18,894人	20,500人	22,000人	1 さめうら荘への誘客 ・魅力ある自然体験プログラム商品のさらなる造成および宿泊プランとのセットによる誘客【通年】 ・レストランメニューのさらなる充実【9月～】 ・SNS等を活用したさめうら湖周辺の効果的なプロモーション、土佐れいほく観光協議会と連携した情報発信【通年】 ・受入体制の強化に向けた人材の確保【11月～】	1 さめうら荘への誘客 ・土佐町役場観光コーディネーターによる、さめうらダムインフラツーリズムを核としたツアー造成や旅行者への販促活動を継続して実施(通年) ・JALと連携した土佐あかうし特別レシピの開発(9月～) (観光庁地域観光魅力向上事業) ・インスタグラム「湖の駅さめうらレイクタウン」にてさめうら荘・カヌーテラス・テントパーク関連の情報発信を実施。さらに土佐れいほく観光協議会と連携してさめうら湖周辺のイベント情報等を発信(通年) ・町内事業者における人材不足の解消に向けた特定地域づくり事業協同組合(土佐町やまとしごと協同組合)を土佐町が設立(11月～事業開始予定) →さめうら荘における受入体制の強化が期待される	8,157人 (R7.4月～8月)	B	(成果) ・早明浦ダムインフラツーリズムツアー・カヌー・SUP等イベントの実施やSNSでの情報発信により、さめうら湖への誘客に寄与している。 ・さめうら荘で提供する新たなレストランメニュー開発が進んだ。 ・さめうら湖協議会にて、湖面利用時の安全管理についての課題が関係者間で共有された。 ・さめうらテントパークの整備が完了(キャンピングカーサイト、ドッグランエリア)し、さらなる誘客促進の基盤が整備された。 ・特定地域づくり事業協同組合(土佐町やまとしごと協同組合)の設立により、さめうら荘の受入体制強化が見込まれる。 (課題) ・人手不足による、さめうら荘の営業時間の制約 ・スポーツ合宿誘致を進めるにあたっての湖面利用時の安全性確保 ・さめうらテントパークの事業拡大に伴う人材の確保およびRVパークのPR (今後の方向性) ・特定地域づくり事業協同組合(土佐町やまとしごと協同組合)事業開始による、さめうら荘の人材の確保及び営業時間の拡充を推進(11月～) ・さめうら荘にて土佐あかうしの新たなレストランメニューの販売を開始し、宿泊プランとあわせて販促を行うことで誘客を図る(12月～販売開始予定) ・湖面利用時の安全性確保に向けた関係機関との調整や受入体制の整備 ・キャンピングカーサイトを認定RVパークとして登録し、PR活動を通じたさめうらテントパークの新規利用者層の開拓(11月オープン予定) ・地域おこし協力隊を募集し、テントパークの運営体制を強化
			カヌー拠点施設利用者数	14,481人	13,000人	14,000人	2 さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興 ・スポーツイベントの開催や競技大会、スポーツ合宿等の誘致【通年】 ・アクティビティ商品等のさらなる磨き上げ・造成、高付加価値ツアーの検討【通年】	2 さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興 ・スポーツイベント「さめうら湖SUPレース2025」の開催：参加者26名(5/8) ・「みずうみ開きイベント」等の各種イベントによるさめうら湖への誘客：カヌー体験66名(4/20) ・さめうら湖協議会(7/23) →関係者間でスポーツツーリズムの振興(スポーツ合宿誘致を含む)に向けた協議を実施	6,963人 (R7.4月～8月)	S	
			さめうらテントパーク利用者数	954人	2,365人	2,800人	3 さめうらテントパークの整備 ・第3期工事(RVパーク整備)の実施【～7月】 ・ソロキャンパー向けや閑散期対策としてのイベントを検討【通年】	3 さめうらテントパークの整備 ・第3期工事を実施し、さめうらテントパークの整備が完了(7月)(キャンピングカーサイト、ドッグランエリア) ・ソロキャンパー向けイベントの実施：参加者16名(9/6～9/7) ・土佐れいほく観光協議会主催の体験博覧会「れいほく。」と連携したデイキャンププランの造成(10/21～10/24)	491人 (R7.4月～8月)	D	
			売上高増	-	-	130,000千円				-	
			雇用創出数	-	-	1人				-	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R9目標	R7計画	【D(Do)】	R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	現時点の進捗状況							
						R7到達目標 に対する現状					達成 見込み (※)	現状分析	
その他	16	土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化 (土佐町) 【実施主体】 ・◎合同会社いしはらの里 ・◎(株)いしはらキッチン ・◎有限責任事業組合トサイチョン ・いしはらの里協議会 ・土佐町 土佐町石原地域の資源をフル活用した稼げる仕組みを構築し、UIターン者の受け皿となる仕事を確保するとともに、収益を活用してブラスアルファの住民サービスを展開し、あらゆる世代の者にとって暮らしやすい地域づくりを進める。	宿泊・交流 事業売上高 598万円 (R4)	557.2万円	750万円	900万円	1 交流人口の拡大・宿泊施設の整備・運営 ・秋・冬期における体験プログラムの拡充【10月～】 ・体育館を活用したスポーツクラブの合宿誘致【9月～】 ・木の家の活用方法や新たな整備など幅広く検討【6月～】	1 交流人口の拡大・宿泊施設の整備・運営 ・関係者で連絡会を月1回開催し、秋・冬期の体験プログラムの拡充、体育館活用プランの造成、木の家の整備案についての検討 →スポーツ合宿誘致に向けたプラン造成やウッドデッキの整備方針が明確化 ・土佐れいほく観光協議会主催の体験博覧会「れいほく。」において、新たな体験プログラム造成に向けた協議を実施 →テントサウナを中心としたプログラムを造成	257.9万円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：82.5% ・対前年同期比：84.6%	C	(成果) ・体験プログラムの拡充に向けた検討が進み、「れいほく。」にてテントサウナを中心としたプログラム造成された(10/12プログラム実施)。 ・秋・冬期の閑散期対策として、スポーツ合宿誘致に向けた体育館活用プランのターゲット層(大学生サークル等)が整理された(9月)。 ・木の家周辺の整備案としてウッドデッキの整備が候補となり、方向性が明確化された(6月)。 (課題) ・体育館活用プランの具体的なプログラム内容の検討が不十分 ・テントサウナのプログラム本格化に向けたニーズ調査が不足 ・ウッドデッキ整備の具体的な設計及び資金計画が未整備 (今後の方向性) ・閑散期の誘客強化に向け、体育館活用プランについてターゲット層に適したプログラムを関係者との協議を通じて検討し、実現可能なプランを策定 ・「れいほく。」においてテントサウナプログラムを実施し、参加者のニーズを把握した上で、プログラム本格化に向けた検討 ・木の家周辺のウッドデッキ整備について、設計案や資金計画を具体化し、整備の実現可能性を検討		
			さとのみせ・ やまさとの市 売上高 1,372万円 (R4)	2,341.3万円	2,050万円	2,500万円	2 地域資源の活用 <さとのみせ(店舗)、やまさとの市(直販所)の収益力及び利便性向上> ・「さとのみせ」：将来的なあり方の検討、地域内利用者の利便性の検討【8月～】 ・「やまさとの市」：新たな機能(調理設備等)の整備計画の策定【8月～】	2 地域資源の活用 <さとのみせ(店舗)、やまさとの市(直販所)の収益力及び利便性向上> ・「さとのみせ」および「やまさとの市」の将来的な在り方を検討を進めるための協議体制を整備及び協議の実施：3回(8月～9月) →さとのみせの赤字要因を分析し、赤字要因分析および収支改善について収支改善策を検討 (中山間地域振興アドバイザー(中山間地域対策課)の活用)	1,018.5万円 (R7.4月～8月) ・R7到達目標達成率：119.2% ・対前年同期比：91.0%		S	(成果) ・協議体制の整備により「さとのみせ」の課題について関係者間で議論が開始され「やまさとの市」を含む関連事業全体の見直しに向けた検討が進んでいる。 ・「さとのみせ」の経営課題が明確化されつつあり、収支改善策の方向性が整理された(中山間地域振興アドバイザー(中山間地域対策課)を活用)。 (課題) ・「さとのみせ」の収支改善を進めると同時に、「やまさとの市」を含む関連事業全体の運営方針の検討 ・事業を実施・継続するための人材確保 (今後の方向性) ・赤字要因分析を進め、収支改善策を具体化・実行 ・「さとのみせ」の移転を含む長期的な運営方針の具体案を策定し、実現可能性を検討を進め、年度内に整備方針を決定 ・関連事業全体を支える人材の確保に向け、地域おこし協力隊の導入を検討	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成見込みの基準について

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

分野	No.	項目名・実施主体	【P(Plan)】				R9目標	R7計画	【D(Do)】 R7取り組み状況	【C(Check)】・【A(Action)】		
			指標 出発点	R6実績	R7 到達目標	現時点の進捗状況						
						R7到達目標 に対する現状				達成 見込み (※)	現状分析	
		(株)いしはら キッチン 加工品 販売額 1,500万円 (R5見込)	1,504.8万円	2,250万円	3,000万円	2 地域資源の活用 <加工品の販路拡大及び売上増> ・新商品の開発および販路拡大による売上基盤の強化(産振補助金(ステップアップ事業)を活用予定)【8月~】 ・HACCP対応の新加工場整備に向けた事業計画策定【10月~】	2 地域資源の活用 <加工品の販路拡大及び売上増> ・専門コンサルの支援を受けながら、地域素材を活かした新商品開発を開始(産振補助金(ステップアップ事業)の活用) →イタドリを使った新商品の完成(開発8月~9月、販売10月~) ・HACCP対応の加工場整備を視野に入れ、現製造環境の衛生管理向上に向けた指導を実施(5月) (生産性向上推進アドバイザー制度(地産地消・外商課)の活用)	444万円 (R7.4月~7月) ・R7到達目標達成率：59.2% ・対前年同期比：78.5%	D	(成果) ・地域素材を活用した新商品が完成し、今後の販路拡大に向けた体制が整った(産振補助金(ステップアップ事業)の活用)。 ・現状の製造環境における衛生管理の問題点について整理ができた(生産性向上推進アドバイザー制度(地産地消・外商課)の活用)。 (課題) ・新加工場整備計画を進めるにあたり、安定した売上基盤の構築が必要 ・新商品の販路拡大 ・現製造環境における衛生管理の向上 (今後の方向性) ・新加工場整備に向けた関係者との協議 ・引き続き専門コンサルの支援を受けながら、完成した新商品の販路拡大に取り組みによる安定した売上基盤の構築 (R9の新加工場の整備に向け事業計画をR8に策定予定) ・新加工場においても活用することを前提とした製造機械を導入による、現製造環境における衛生管理の向上及び製造の効率化 (食品加工高度化補助金(地産地消・外商課)を活用予定(12月審査会))		
		トサイチヨン 売上高 100万円 (R5見込)	451.3万円	400万円	1,500万円	2 地域資源の活用 <稼げる林業の体制構築> ・地域おこし協力隊の育成指導【通年】 ・切り捨て間伐等受託業務の拡充【通年】 ・機械導入の検討【通年】	2 地域資源の活用 <稼げる林業の体制構築> ・地域おこし協力隊 5名の育成指導に加え、林業インターンシップの受入を実施：受入人数7人(7月~) ・新たな案件の受託により、切り捨て間伐等業務を拡充予定【11月~】 ・木工品の加工を目的としたレーザー加工機を導入し、観光ツアー客向けや県内外のイベントでの木工体験に活用 ：木工体験実施10回 売上41.9万円	142.2万円 (R7.4月~8月) ・R7到達目標達成率：85.3% ・対前年同期比：59.4%	B	(成果) ・地域おこし協力隊の育成指導が継続しており、隊員数も増加している(R6:4名→R7:5名)。 ・切り捨て間伐受託業務の拡充により、売上高の増加が見込まれる。 ・導入したレーザー加工機を活用した木工体験を実施し、売上高の増加に寄与している。 (香川県水源地学習事業、高知市上下水道局、いしはら観光ツアー受入等) (課題) ・人手不足により、受託業務の拡充が限界 (今後の方向性) ・継続的な地域おこし協力隊を育成と、任期終了後の地域おこし協力隊の受け皿づくりにより人材を確保し、間伐等受託業務を拡大 ・レーザー加工機を活用した木工体験を継続するとともに、木工品の加工・販売について検討		

2 令和7年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取り組み	事業概要	総事業費 (補助金額)
<p>■No. 16 土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化(土佐町)</p> <p>※ステップアップ事業(通常分)</p> <p>8/14 交付決定</p>	<p>・新商品開発及び販路拡大に向けた専門コンサルタントによる支援</p>	<p>2,805</p> <p>(1,274)</p>